



谷津遊園看板前で遠足の集合写真



たくさんの人が訪れた潮干狩り

### 開発と自然保護の時代

高度経済成長期の波が訪れ、やがて谷津の海にも埋め立ての危機が迫ります。千葉県による京葉港第二次埋立事業が計画され、1971年（昭和46年）に習志野の漁業組合が解散になり埋め立てが始まりました。同時に干潟の保護運動も行われましたが、着々と埋め立ては進んでいきました。

谷津遊園の一部（現在の谷津干潟）は、1940年（昭和15年）に内務省（当時）および運輸通信省（当時）が利根川・江戸川の放水路整備を図るために京成電鉄より買収し、大蔵省（当時）所管の国有地になりました。そのため、周囲は埋め立てられましたが国有地だった部分は埋め立てられずに残りました。保護運動をしていた人たちが、残った干潟を“谷津干潟”と名付けたのはこの頃です。

しかし、閉鎖的な四角い干潟のた



1971年（昭和46年）



1974年（昭和49年）



団地窓に吊るされた埋立反対のポスター

め、ゴミが堆積し、生活排水が流れこみ、悪臭が発生し埋立ての危機が訪れました。



## 広い空、移ろいゆく自然 未来へ引き継がれていく “谷津干潟”

谷津干潟自然観察センター 広報担当 小山 文子  
“谷津の海”といわれていた時代



現在の谷津干潟辺りの海は、埋立て前は“谷津の海”と呼ばれていました。干潟一里（約4km）と言われるほど広大な干潟があり、この界限に住む人々は、塩田やボラ・ウナギの養殖、アサリ・ハマグリなどの漁、海苔漁を営み、畑作も行いながらの半農半漁を生業としていました。また、1925年（大正14年）に谷津遊園が開業し、1982年（昭和57年）に閉園するまで、海岸の自然を生かしたレジャーも盛んでした。東京をはじめ関東一円からたくさんの人が谷津遊園に遊びに来ており、春の潮干狩りと夏の海水浴の時期には、家族連れや子ども達で干潟一面が真っ黒になるほど賑わっていました。

### 習志野市谷津干潟自然観察センター

【お問い合わせ】〒275-0025 千葉県習志野市秋津5-1-1  
<http://www.seibu-la.co.jp/yatsuhigata/>

TEL: 047-454-8416  
FAX: 047-452-2494

【開館時】9:00～17:00（入館は16:30まで）  
【休館日】月曜日（月曜日が祝休日の場合は次の平日）  
年末年始（12月28日～1月1日）  
※施設管理のため上記以外に休館することがあります。

【入館料】一般料金・団体料金（30名以上）  
大人（高校生以上）380円・300円  
大人（65歳以上）190円・150円  
子供（小・中学生、未就学児）無料

#### 【電車・バス】

- 京成線利用の場合：谷津駅から徒歩約30分
- 東武線利用の場合：新習志野駅から徒歩約20分、南船橋駅から徒歩約20分
- 東武武蔵野線利用の場合：津田沼駅南口バスのりばから「谷津干潟行き」に乗車。終点「谷津干潟」で下車。徒歩約10分。津田沼駅南口バスのりばから「新習志野駅行き」に乗車。「津田沼高校」で下車、徒歩約10分

#### 【自動車】

- 東関東自動車道利用の場合：「谷津船橋IC」から約1分
- 京葉道路利用の場合：「花輪IC」から約10分 ※駐車場は国道357号下り車線からのみ出入りできます。車内ナビ、スマホ用のマップアプリで検索すると、観察センターの正門入口に案内されることがあります。正門入口に駐車場はございませんのでご注意ください。



レンジャーによる観察案内



谷津干潟ユースによる保全活動



谷津干潟ジュニアレンジャーによる生きもの展示



ボランティアによる野鳥観察会

**市民の憩いの場と学びの時代**  
ラムサール条約に登録された翌年の1994年(平成6年)、谷津干潟公園が開園し、自然とのふれあいや自然観察や教育の拠点として「谷津干潟自然観察センター」が干潟に隣接して建てられ、誰もが気軽に谷津干潟を訪れるようになりました。観察センターは開設当初から、レンジャーと呼ばれる専門スタッフが常駐し、鳥や生きものの観察をしな

がら干潟の生態系や役割をわかりやすく案内しています。また、干潟のゴミ拾いや草刈り、観察に役立つ教材づくりや来館者へ見どころを伝えるボランティア活動を幅広く展開し、人と干潟をつなぐ取り組みも継続しています。さらに、小学生、中学生、高校生以上の学生を対象にした若い世代の育成事業にも力を入れ、谷津干潟をふるさとの自然として大切に



野外展覧会



自然教育園として残す運動

保全への時代

国設鳥獣保護区と

ラムサール条約登録

干潟の埋め立てにより行き場を失ったのはシギやチドリ類などの水鳥たちでした。残された谷津干潟に集まってくるようになり、全国有数の渡り鳥の飛来地となっていきました。住民による自然観察会の実施や自然教育園の設置に関する請願、署名活動、ゴミ拾い活動なども盛んに行われました。その甲斐あって、谷津干潟公園とともに下水道が整備され、悪臭問題が解決し、1988年(昭和63年)に国設鳥獣保護区に指定されました。その後、1993年(平成5年)に国内では干潟として初めてラムサール条約に登録され、渡り鳥にとって国際的に重要な湿地であることが認められました。

ラムサール条約  
イランのラムサール(Ramsar)で1971年2月2日採択された条約。特に水鳥の生息地として「国際的に重要な湿地に関する条約」。  
現在、日本のラムサール条約登録地は53か所。



谷津遊園とその前に集まる渡り鳥たち

津田沼の発展と共に…  
pasta ビルグループ  
ホームページは「かし熊」で検索  
大正9年創業 有限会社かし熊 TEL 047-475-0164

とんかつ 寿々本  
習志野市役所通り  
☎047(453)2310

池田屋  
配食サービス  
谷津商店街 TEL 047(452)8952  
(451)8664

ASA 習志野  
習志野市津田沼 6-2-13  
TEL047(451)2355  
FAX047(451)2335  
所長 松村 禎彦

## 都市と自然との 共生時代

現在の谷津干潟はプラスチックゴミの漂着、外来種の大規模増殖、貝殻などの堆積物による海水の滞留、海藻増殖による悪臭問題や生き物の被害、青潮による被害、渡り鳥の減少などの問題をかかえています。埋め立てで免れた干潟ですが、法律や条約だけではこれらの問題は解決できません。

ラムサール条約の理念に「賢明な利用（ワイズユース）」という考え方があります。湿地から得られる恵みを、生態系に配慮して持続可能な形で利用することです。現在、谷津干潟は環境教育や市民参加の場、パードウオッチングなどの文化的な場所としての活用がありますが、未来へ引き継いでいくために谷津干潟を健全な状態に維持し、回復させる保全や再生に向けた市民一人ひとりの取り組みも重要となるでしょう。



ホンビノスガイ



漂着ゴミ



細かく砕かれ堆積したマイクロプラスチック

## 豊かな自然

### 尊い命を支える谷津干潟

谷津干潟は東京湾と2本の水路でつながり、1日2回の潮の満ち引きにより干潟の自然環境を支えています。干潟にはカニやエビ、ゴカイや貝、魚や海藻などが生息し、渡り鳥を主とした水鳥の採食場や休息場になっています。谷津干潟は様々な生きものの命を育んでいるのです。

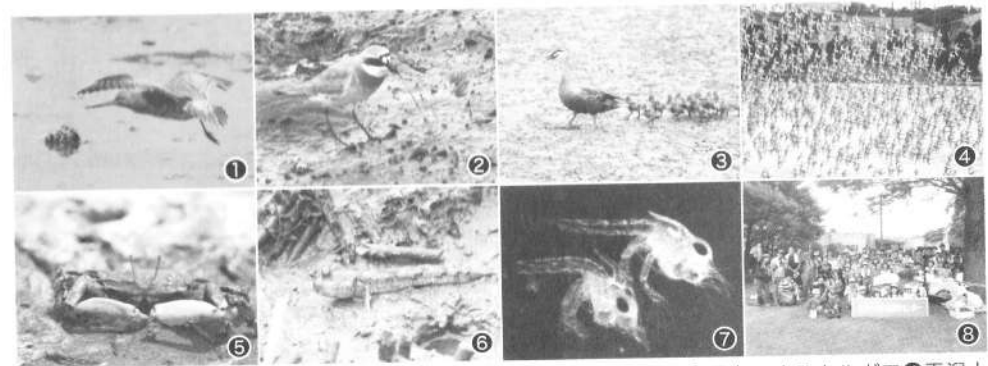
谷津干潟は心が癒され元気をもらえる自然です。遠方から四季折々にやってくる渡り鳥との出会いから季節の移ろいを感じられます。干潟上空を群れで舞う鳥たちの姿は贅沢な景色を作り出します。谷津干潟の水面を紫や茜色に染めながら落ちていく夕陽は時間を忘れるほど見ていて美しい景色です。そして、干潟は月の引力によって生じる潮の満ち引きをまのあたりに見ることが出来ます。潮の流れを見てみると自然の仕組み

の不思議さを感じさせてくれます。

春から夏にかけての季節は、子育てをする野鳥の姿や干潟一面にでてるカニ、魚やエビが泳ぎ、クラゲが漂っている様子が見られます。野鳥たちが舞う姿やカニや魚を捕獲しよう。

埋め立てから半世紀が過ぎました。谷津干潟は多くの人たちの努力によって守られてきました。これからどのようにに人々が谷津干潟に関わり守っていくのか、次の世代にどのようにに継いでいくのか考え行動する動きを迎えています。

歴史を振り返り、今の谷津干潟を実感し、100年後の谷津干潟の姿をイメージしてみてください。青空と水が広がり、多種多様な干潟の生きものたちや地球を旅する渡り鳥たちの群れで賑わう美しい自然が、市民みんなの大切なふるさととして引き継がれていくことを願います。



①1万キロ旅をするオオソリハシギ②ゴカイを食べるメダイチドリ③子育てするカルガモ④干潟上空を舞うハマシギ⑤泥の中に住むヤマトオサガニ⑥泥の上を這うトビハゼ⑦干潟の海水を漂うカニの幼生⑧たくさんの市民による干潟のゴミ拾い活動

# 医療法人 津田沼中央総合病院

社団愛友会 ②75-0026 習志野市谷津1-9-17 ☎047(476)5111(代)  
URL <http://www.tcgh.jp/>

	受付時間	診療時間	月	火	水	木	金	土
午前	8:00~12:00	9:00~	○	○	○	○	○	○
午後	12:30~17:00	14:00~	○	○	○	○	○	

■休日/日曜日・祝日  
(但し急患の方はいつでも対応致します)  
■都合により休診や診療時間の変更される場合があります。お問い合わせ下さい。

- 病床数 300床 ●訪問看護 津田沼訪問看護ステーション
- 透析センター
- 人間ドック